

受賞者記念講演会が開催されました

前ページ掲載の平成16年度の受賞者を講師にお招きしての記念講演会を、7月9日(土)に文京区白山の東洋大学で開催しました。

当日は梅雨空の中、130名を越える方々が出席され、今年4月に完成したばかりの白山キャンパス6号館6B12教室がほぼ満席の盛況となりました。

会場には、パソコン要約筆記・手話通訳に加え、補聴器を使用していらっしゃる方のために磁気誘導ループを張った席を設け、少しでも快適な聴講環境を整える配慮をしました。講演会終了後に回収したアンケートでも評価は高く、今後もこうした環境整備を望む声が数多くありました。

今回は、新たに「日本社会福祉学会関東部会」に共催していただき、ますます充実した記念講演会へと成長しつつあります。



審査講評を述べられる
大橋審査委員長



山口利勝氏



李政元氏



熱心に聞き入る、参加者のみなさん

ワンポイント解説

要約筆記というのは、その場で聴者が聴覚によって得られるのと同じ情報を、聞こえない方が、話し手と同時に視覚に変えて情報が取れるようにすることです。その方法には次の二つがあります。

1. ノートテイク

聴者の中に、1～2名の聴障者が参加のとき、隣で紙などに書いて見せる。

2. パソコン要約筆記

聴者の中に多数の聴障者が参加の時、パソコンに入力したものを、スクリーンに映し出して見せる。

磁気誘導ループというのは、ループアンテナに音声電流(磁気誘導アンプ)を流すことにより、補聴器に内蔵されている磁気コイルに交流電圧を誘起させ、この電圧を補聴器内で増幅して音を聞き取りやすくするものです。

欧米では補聴システム(磁気ループ)は、すでに常識化されていますが、日本の場合は設備されているところは限られているのが現状です。

講演会参加者のアンケートから

「中途失聴者と難聴者の世界」山口利勝氏の講演について

- ・ 特別養護老人ホームにおいて、聴覚障害者の受け入れをする予定です。「手話」にこだわってきましたが、「要約筆記」が必要なことに気付き、改めて準備の再構築をしたいと思います。
- ・ 私のいる職場にも難聴の人がいるのですが、今までなんとなく付き合いづらく感じていました。しかし、今回の講演で認識を改めました。今後はバリアを低くして付き合いようにしたいと思います。
- ・ 私は同じ難聴者ですが、難聴者の精神的な心情を話して下さり涙がこぼれました。情報保障が十分でない社会生活が困難であるということ。本日はパソコン要約筆記・磁気ループ・手話通訳とご配慮下さり感謝しております。このような情報保障があって初めて苦もなく社会参加できるということをご理解いただきたいと思います。
- ・ 「話す」ことができる（音声言語が獲得できている）ばかりに、逆に周囲から“障害者”とみなされないことで、本人が苦悩やストレスを感じるという点は、新しい気付きとなった。
- ・ 中途失聴者や難聴者と関わっている要約筆者として「意識のバリアをなくすことを世間に広めることが重要である」というまとめは、活動していて実感していることです。
- ・ 主人が難聴者であり、大変さが分かっているつもりでしたが、改めて「そっかー！」と思うところ（主人は雑談のとき笑顔ですが、後で私に質問してきます）がありました。難聴者の困っていることが、こうしてまとめて発表されたということが、今後難聴者への理解・ケアへの大きなきっかけになるのを期待します。
- ・ これまで意識してこなかった「別の世界」が存在するを知った。貴重な研究であり、受賞にふさわしい内容の講演を聞いた。障害者の内面と外面、主観と客観、主体と客体という2つの視点から中途失聴者や難聴者の姿を投影し描き出した研究であり、時間を割いて聞きにきた甲斐があった。
- ・ 社会福祉の分野の研究は、今までスポットが当てられていなかった方々に対して光を当てていくことなのだど理解できました。

「高齢者福祉施設スタッフのQWL測定尺度の開発」李政元氏の講演について

- ・ タイトルを見たとき、何だかさっぱり分かりませんでした。でも、お話を聞いて職場環境の調査方法のことなのですね。ケアワーカーの平均勤続年数の短さにはビックリです。
- ・ とても面白いアプローチだと思った。私も福祉施設で働いているが、職員の回転が速い（すぐ辞める人が多い）。施設管理者がこのアンケートを取り入れてみたら良いと思った。
- ・ 介護職員の働き甲斐は、入居者・利用者との関わり合いによるところが大きいと思います。是非、介護の質→入居者・利用者の生活向上→労働力改善という視点も研究して下さい。
- ・ 働く側の人間が一言で言うと「幸せ」でなければ、周囲の人々に良い影響を与えることは無理だと、はっきり言い切れると感じている。その点では、QWLを測定することは働く側の内面を探り数値化できる手段だと感じ、必要性は高いと思った。

「損保ジャパン記念財団賞」関連記事の紹介

「消費と生活 NO.263 '05.5.6」(株式会社消費と生活社)より抜粋

文献表彰制度への
推薦著書から
早川 克巳

損保ジャパン記念財団に社会福祉学術文献表彰制度がある。社会福祉分野の研究者育成を目的に秀れた学術文献を表彰する。大橋謙策氏を委員長にこの分野で一流の審査委員が審査、財団理事会で決定する。審査委員会にあがって来る著書、論文は指定推薦制をとっているため、文献の水準は高く保たれ審査委員会も多くの著書、論文に目

を通し、白熱した議論を重ねる。縁あって審査委員の末席に名を連ねており、とうてい他の審査員と並ぶべくもないのだが、この分野の動向を知り研究の一端を学ぶ貴重な機会を得ているので、本誌読者にも役立つような著作の一部を紹介してみよう。

平成一六年度の著書部門受賞は「中途失聴者と難聴者の世界」(一橋出版)。第一福祉大助教授の山口利勝氏は大手自動車メーカー勤務の後、広島大学で教育心理学を修め、自身が失聴者となり聴覚障害者の心

理・社会面を研究テーマとするようになった。視覚もそうだが途中で失明、失聴するとその影響は健常者には図り知れないものがある。特に聴覚障害者は外見、行動など普通の人と変わらないのに周囲の人とコミュニケーションできない危機にさらされる。今まであまり語られることのなかったその世界を、自らの個人的体験談に止めず、心理学、社会学、社会人類学的知見をもとに学問的水準の高い内容にまとめた。しかも平易でわかりやすく広く一般の人でも読んでほしい著作となった。山口氏を取り巻く人々も出席した表彰式は、出席者の感動が静かな波となって伝わって来て印象的だった。

最近介護をめぐる仕事を志す若い人が多い。しかし資格をとってお年寄りや病人、障害者に親切にお世話するというだけでなく、特に大学で福祉分野を学ぶ人、社会人で第二の人生を福祉分野で送りたいという人は、科学的・研究的な実践を心がけたい。それでこそケアマネージャーなど指導的立場につけるといえるものだろう。文献賞にはもれたが「はじめての介護研究マニュアル」(保育社)はそういう志の高い人向けにうってつけだ。介護研究を科学的に実践するためのアイデアから研究発表までを手引きしてくれるテキストで、研究することの意味から解き起こし、テーマ発見のアイデア、研究の手順・方法、データ集め、発表の方法に至る。介護分野にはさまざまな課題があって終わりが無い。研究的な取り組みで介護の質が向上していくというあとがきが福山市立女子短大で介護研究に取り組む著者、矢原隆行氏の姿勢をよく表している。

水準の高い一般書として注目したのが、王文亮氏の「中国農民はなぜ貧しいのか」(光文社)。農業と工業、都市と農村、頭脳労働と肉体労働の三つの差別や格差が、社会的地位に、過重な労働、生活の貧しさという面で中国農民の困窮を招いている。その実態をジャーナリスティックな筆致と学問的な知見とをあわせて描き出している。胸を打つのは九州の福祉系大学で教鞭をとる社会保障・福祉研究者としての熱い思いがあればこそだろう。

王氏著書が経済的発展で注目される中国の別の面を伝えてくれるのに似て、福祉分野に新しい視野を広げてくれるのが千葉大教授広井良典氏の「生命の政治学」(岩波書店)。医療経済、社会保障論、科学哲学を専攻、エコノミスト賞、吉村賞受賞など声価の定まった研究者だけに幅広く深い議論が展開して刺激を受けることだろう。福祉国家、エコロジー、生命倫理とタイトルにあり、生命とは? 簡単に QOL(クオリティ・オブ・ライフ)というが、そのライフを、生活、生命とした場合の意味は? どのようにして保障、実現するのかなど、政治や社会のありようまで問う。ふやけかかった脳をゆさぶり、マンネリ化したルーチンワークにうんざりしかかっているビジネスマンが眠気をさます意味でも、著者の問題提起の一端にふれてみたいと思わせる。以上、受賞作一編と入賞に至らなくても広く読まれていい本をピックアップした。

福祉文献賞の外にはあるが、脳みそをゆさぶられる刺激の書としてあげたいのが、芳賀綏(やすし)東工大名誉教授の「日本人らしさの構造」(大修館書店)。先に同氏の「昭和人物スケッチ」を本欄でも紹介したが、軽妙洒脱なエッセーで私たちが親しんで来た同氏著作とは一味違った「言語文化論講義」だ。国語学、コミュニケーション論に精通する碩学が日本人らしさを表す指標語句を手がかりに、日本人の意識・行動を活写していく。

筆者はかつて余暇開発センターの「日本人論の検証」プロジェクトに参加、ベネディクト、土居健郎、中根千枝、ベンダサンらの論のキーワードの妥当・通用性を検証する仕事に関わったことがある。それ以来の知的興奮を受けた書と述べておこう。



地域福祉の充実と支えあう地域社会の実現に向けて

「NPO法人基盤強化資金助成」を実施

4月27日(水)に平成16年度「NPO法人基盤強化資金助成」の贈呈式が、損保ジャパン仙台支店会議室において開催されました。この助成事業は、当財団の「NPO法人設立資金助成」に次ぐ新たな事業として、設立された福祉系のNPO法人が、地域でより質の高いサービスを提供できるよう支援することで、地域福祉の充実を図り、ひいては地域で支えあう社会の実現を目指す事業です。

16年度は試行期間として、宮城県において募集を実施し、選考委員会において厳選された5団体に対して40万円から70万円の基盤強化の助成金が贈呈されました。

対象となった各団体は、地域のニーズに応えるために新たな事業を計画したり、既存の事業拡充・サービス向上を計画しながらも、資金的な事情等で実行に移せなかったところへ、本助成がきっかけとなり、計画の実現に一步を踏み出すことが出来ました。当日は、5団体から8名の方々が出席され、梶谷仙台支店長から決定通知書が交付されました。それぞれのNPO法人は、本助成の意義をしっかりと理解し、基盤強化への取り組み決意を新たにされており、1年後の成果が大いに期待されます。

贈呈先は下記の通りです。

団体名	活動内容
NPO法人 杜の伝言板ゆるる	キャリアを生かし社会に貢献したいというシニア層の増加を踏まえ、市民活動やNPO活動に結び付けていくシステムを構築し「シニア・キャリアNPOボランティアセンター」の開設を目指す
NPO法人 さいしょはグー！ ほっとスペース・あいあい	これまでの介護保険事業等に加え、県が県有施設をNPOに貸与する事業を受けて、障害者のレスパイトケア事業・サロン事業に取り組み、高等養護学校卒業生の就労支援にも寄与していく。
NPO法人 グループゆう	NPOの社会的評価の向上を目指し「福祉サービスの品質マネジメントシステムの構築」に同法人の会員自らが取り組み、その成果を公開し他のNPOの品質管理の一助としていく
NPO法人 みやぎ身体障害者 サポートクラブ	郡部で身体障害者のデイサービスを実施しているが、近隣に同種サービス事業者がないため利用者が急増し十分なサービス提供が困難な状態に至っており、施設の改増築が急務となっている。
NPO法人 シニアのための 市民ネットワーク仙台	障害者向けパソコン講習会に取り組み、特に遅れている中途視覚障害者に対する音声ソフトを活用した研修に力を入れた事業を展開する。他団体とのネットワーク化を推進し技量向上にも貢献していく。

河北新報 (05.5.9)

★NPO法人を支援
損保ジャパン記念財団
(東京)は、NPO法人を
支援する二〇〇四年度の基

盤強化資金の助成対象に、
県内五つの障害者・高齢者
福祉団体を選び、それぞれ
助成金を贈った。一団体当
たり四十七万円で、計
二百九十五万円。
五団体は、高齢者向け福
祉サービス「杜(もり)の
伝言板ゆるる」、知的障害
者就職支援「さいしょはグ
ー!」、障害児の放課後ク
ラブ運営「グループゆう」、
シニアのための市民ネッ
トワーク「仙台」の仙台市の
四団体と、栗原市(旧一迫
町)の「みやぎ身体障害者
サポートクラブ」。

記念財団は一九九九年
から毎年、NPO法人化を
目指す民間福祉活動に助成
してきた。今回は法人化し
た団体の基盤強化を対象と
した初めての助成で、県内
五団体が全国に先駆けて選
ばれた。



平成17年4月27日
仙台支店での贈呈式から

平成17年度

「NPO法人設立資金助成」の 首都圏地区贈呈式を開催

7月7日（木）に平成17年度「NPO法人設立資金助成」首都圏地区1都3県の贈呈式が、損保ジャパン本社ビル43階で開催されました。

本年度は、全国70の障害者・高齢者福祉団体に対し、特定非営利活動法人（NPO法人）設立資金として各30万円、合計2,100万円の助成を行うもので、そのうち首都圏地区の23団体に対しての贈呈を行いました。（助成先一覧は次ページ参照）

贈呈式では、選考委員長である板山賢治氏の選考概要の説明に続き、東京都生活文化局都民生活部長である高島茂樹氏から祝辞をいただき、来賓を含め120名を越える方々の出席を得て、盛大に開催されました。

また、シーズ・市民活動を支える制度をつくる会の事務局長である松原明氏の講演には、熱心にメモを取る姿も見られ、贈呈式終了後の既助成先も参加した交流会では講演内容を受けて、多くのNPOから質問攻めに会う松原氏の姿が見受けられました。

助成金の決定通知書の交付は、毎年の例に倣って、金田理事が団体の皆様のお席を回りながら、お一人お一人に手交させていただきました。

この贈呈式の様子は、7月21日の損保ジャパンの衛星放送でも紹介されています。

首都圏地区以外の47団体への贈呈は、これから8月末までの間に全国の損保ジャパンの該当支店において順次開催されます。その模様は次回ニュースにてご紹介する予定です。



選考概要を話される板山選考委員長



金田理事より、団体の皆様お一人お一人に
決定通知書が手渡されました。



交流会で挨拶をされる、松尾選考委員



交流会場で参加団体からの質問に答える
シーズの松原事務局長

17年度「NPO法人設立資金助成」贈呈先一覧

(敬称略)

都道府県	団体名	都道府県	団体名	都道府県	団体名
北海道	TAKの会	東京都	大塚土曜クラブ	兵庫県	「はこべの家」共同作業所運営委員会
北海道	小規模作業所 あかり家	東京都	サンワーク田無	兵庫県	のじぎく工房
北海道	ゆいまーる	東京都	ケアネット とともに生きる 教育サポートセンター	兵庫県	肢体不自由児・者通所作業所 つみきハウス
北海道	地域たすけあいサービス 青空	東京都	NIRE	兵庫県	ひやしんす
青森県	心身障害者小規模作業所ワークハウス ねこやなぎ	東京都	パオパオくらぶ	兵庫県	共働事業所 陽だまり
岩手県	六等星	東京都	小児病棟・在宅“遊びのボランティア” 「ガラガラドン」	兵庫県	でかけ隊
岩手県	つばさの会	東京都	東京都腎臓病患者連絡協議会	兵庫県	障害者小規模作業所 生き生き生活支援センターPatch
宮城県	NPO福祉ネットABC	神奈川県	日本脳外傷友の会	兵庫県	なないろのハート障害者協働事業所
山形県	特定非営利活動法人 置賜自然と共育 の村	神奈川県	厚木市精神保健福祉を考える市民の 会・アジュールの会	兵庫県	尼崎中央家族会
福島県	小規模作業所 光と風の工房	神奈川県	精神障害者のあすの福祉をよくする三 浦市民の会	奈良県	たむたむ荘
茨城県	茨城県ボーテージ協会	新潟県	新潟市自閉症親の会	鳥取県	淀江作業所 (淀江町精神障害者小規模作業所)
埼玉県	セカンドハウス みんなのいえ	石川県	特定非営利活動法人 シナジースマイル	岡山県	トロワ
埼玉県	福祉団体 ひまわりの家	福井県	福井県社会就労センター協議会	岡山県	鴨方希望の会
埼玉県	飯能・日高精神保健福祉NPO法人準備 委員会	長野県	STS (障害者自律支援てくてく運営委員会)	徳島県	ショップうだつ
千葉県	やちまた放課後クラブ ぶらんこ	岐阜県	岐阜市重症心身障害児(者)を守る会・重 症心身障害児者小規模訓練所 あじさいの家	福岡県	福岡県直方鞍手地域精神障害者家族 会(なおみの会)共同作業所
千葉県	共同作業所フロンティア	岐阜県	心身障害者通所授産所 共同作業所 星の村	福岡県	共同作業所 はるかぜ
千葉県	アーモ福祉協会	静岡県	企業組合イルカ 手づくり工房イルカ	佐賀県	鳥栖市手をつなぐ親の会 福祉作業所「コスモス夢工房」
千葉県	POCO a POCO	愛知県	脳外傷友の会「みずほ」	長崎県	マンボウの会
千葉県	精神保健福祉を支える会NEW	愛知県	りーば運営委員会	大分県	さいき未来21 ふれあいプラザ「フローレス」
東京都	特定非営利活動法人 エクセルシア	愛知県	特定非営利活動法人 花*花	鹿児島県	NPO デフNet.かごしま
東京都	WITH	滋賀県	草津市 心身障害児者 連絡協議会	沖縄県	特定非営利活動法人 ゆい作業所
東京都	東京多摩いのちの電話	京都府	心病む人々の ステップアップ支援実行委員会	沖縄県	(家族会)むるぶし会
東京都	あい運営委員会通所訓練所あい	大阪府	精神障害者小規模作業所 フレンドリーバル		
東京都	アイゴ21	大阪府	特定非営利活動法人 ぴーす (現:堺おもちゃ図書館ぽっぽ)		

* 「特定非営利活動法人」の記載には、申請中のものを含みます。

寄付のお礼

皆さまから暖かい寄付をいただきました。厚くお礼申し上げます。当財団の事業は、皆さまからの貴重な寄付金により成り立っております。法人、個人問わず広く寄付金を受け付けておりますのでご協力をよろしくお願い申し上げます。

(平成17年7月末日現在)

株式会社 損害保険ジャパン 様 他 匿名希望1名様